

新たな年度が始まりました。この4月から室戸に引っ越してこられた方など、今までとガラッと環境が変わった方もいらっしゃるのではないのでしょうか。この紙面では、室戸市全域がエリアとして認定されている室戸ユネスコ世界ジオパークの活動報告や小ネタを紹介しています。

知ってる？ジオパーク

今年の2月から毎週末と祝日に実施していたガイド養成講座（全11回）が無事に終了しました。開講期間中には、室戸ジオパークの学術助成金制度を利用し、室戸市内で研究調査をしていた5人の研究者の方によるサイエンスカフェも実施。今回のガイド養成講座では、地質・地形・文化の基礎を学ぶ座学編とともに、室戸岬、行当岬、西山台地、吉良川の町並みなどをフィールドとした現地観察や室戸岬でのガイド実演も多く行いました。室戸岬でのガイドツアーが有名ですが、今回フィールドで巡った他の場所でもガイドツアーが実施されています。ツアーではそれぞれの場所の地質・地形に関する基本情報と、その場所での歴史・文化・人の暮らしを結びつけてお客さんに伝えています。今回フィールド学習の時間を多くとったのは、「知識が増えるのは嬉しいけど、それをいざ実践の場で試そうとすると難しい」とおっしゃる現役ガイドさんがいたからです。ガイド実践の場では地質・地形の知識だけあっても、「ジオパークガイド」としては通用しません。その知識とわたしたちの生活をどう関連づけて説明できるか、という点が大事なポイントです。今回受講した22人の受講者の中から、実際にジオガイドの道を進んでいく方が多く現れることを期待しています。



外部講師の方が担当する講座も多く盛り込みました。

室戸高校生、北海道・洞爺湖UGGpへ行く

2月7日(火)から11日(土)にかけて、室戸高校の代表生徒3人が北海道にあるユネスコ世界ジオパークである洞爺湖有珠山ジオパークを訪問。現地の虻田高校生とお互いの地域の特徴について情報共有し、その後一緒に有珠山へ。昭和新山のふもとから有珠山火口展望台まで、軽いハイキングをしましたが、慣れない雪道に苦戦していました。

高校生滞在期間中の洞爺湖は「2月でこんなに暖かいことはない。まず道路に雪が積もってないことが驚き」と地元の方が言うほど天候に恵まれていました。それでも一面銀世界の山や美しい洞爺湖、蝦夷富士と呼ばれる羊蹄山も目前で堪能し、見たことない景観と感じたことのない寒さを楽しんでいました。



ジオパークネットワークの活用ってなに？

みなさんの中にはご存知の方も多いと思いますが、室戸ユネスコ世界ジオパークは「世界ジオパークネットワーク(GGN)」に加盟しています。ジオパークとして世界認定を受けると、自動的にそのネットワークの会員になるんです。室戸はその他にアジア太平洋地域にあるジオパーク地域が加盟する「アジア太平洋ジオパークネットワーク(APGN)」と、「日本ジオパークネットワーク(JGN)」の会員でもあります。このネットワークは、名ばかりのものではなくて、本当に日ごろから地域間で連絡をとりあっています。室戸のジオパーク活動の中で先進例になるものがあればそれを情報発信したり、たとえばツーリズムに関して困ったことがあれば「あなたの地域ではどう対応してる？」と気軽に相談しています。実際に他地域を訪問することも大切で、「いいものは真似する」というカルチャーもジオパークにはよくあります。2月は三好ジオパーク構想地域（徳島県）、香港ユネスコ世界ジオパークから事務局と市民の方が室戸を訪問し、室戸のツーリズムの取り組みと地域連携の実践について、



香港UGGpの方々地域住民の交流

視察しに来られました。上述の室戸高校生の北海道訪問も、こうしたネットワークを活用した取り組みと言えます。「他の地域はどんな活動をしているんだろう？それをわたしたちの事業に活かすことができないか」と思う方は、いつでもご相談ください。



YouTube



Facebook



Twitter



Instagram